

# All we have to decide is what to do with the time that is given us.

イケダ マリア

Maria Makabenta IKEDA

京都産業大学 経済学部 准教授  
専門分野：地域開発

略歴

フィリピン大学経済学部卒後、フィリピン大学大学院経済学研究科修士課程に入学し、単位取得後退学。その後フィリピン大学経済学部勤務を経て、日本に留学し、京都大学大学院経済学研究科博士課程現代経済学専攻博士号取得。京都情報大学院大学と兵庫県立大学での准教授を経て、2016年4月より京都産業大学経済学部准教授職に着任。

## 研究テーマ

地域開発の実証研究を行っています。地域に関する種々の統計データの活用を通じて社会やコミュニティのあり方について重点的に調べています。特に最近は、「大災害からの地域の復興プロセス」、「災害後の地域社会の再興と市民活動(特に外国籍市民の防災・減災の取組など)」、地域住民のリスク認知の形成要因分析と行動」等の調査研究を行っています。

## 研究の道へ進んだきっかけ

小さい頃から父がタイプライターを打つ音を毎日のように聞きながら育ちました。家の中は本で溢れており、一番落ち着くところは、父の書斎という環境でした。高校の時には、図書委員長を2年間務め、授業の合間に学校の図書館で本の貸し出しを行ったり図書館の分類法を学んで利用者が本を探すことをよく手伝ったりしたものです。そして作業の合間に珍しい本を発見すると非常にワクワクしました。私の子供の頃は、このようにいつも「本」に囲まれた環境にあり、多くの分野のことに興味や関心を持つきっかけとなったと思っています。恵まれた環境だったと感謝しています。

## 研究者になってよかったと思うこと

私自身たいへん好奇心旺盛な性格であり、結果的に研究者になることができて、天職であると感じています。研究者は自分のオリジナルアイデアはもちろん重要ですが、自分の視野を広げるために、様々な人と情報交換や意見交換を行うことも非常に大事なことです。以前勤めていた大学では、他の研究者たちと

の交流がきっかけとなって、英文の学術論文集・雑誌を立ち上げました。この雑誌は、「Japan Social Innovation Journal」というものであり、ソーシャルイノベーションの分野では日本初のオープンアクセス英文学術雑誌です。創刊から7年が経ちました

が、今でも多くの方との活発な議論のもとで、当雑誌は進化しております。(詳細はこちらのリンクでどうぞ。)

<https://www.jstage.jst.go.jp/jstage/edit/jsij/html/Editorial.html>

いろいろな立場の人と意見交換することは、新たな可能性も生まれやすし、研究の成果を発信し続けることもできます。この学術雑誌が実現できたことで、日本国内外の学者や研究者達の研究成果を英語で世界へ発信することができ、そのことに貢献できてよかったと思います。

## 座右の銘

私が幼かった時に、Tolkienの**ことばを叔母が教えてくれました**。このことばが好きです。「All we have to decide is what to do with the time that is given us.」

## 研究とプライベートの両立で工夫していること

家庭と職場の行動に優先順位をつけること、家族の理解と協力を得ることが最も大切です。

## 人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊

Tolkienの「The Lord of the Rings」です。この物語では、「人間の欲望」「弱い心」や「自由意志」で人生が変わること、また、意思決定力の大切さについて描かれています。さらに、想像力を働かせ生き残るために「人間の行動」や「友情」の大切を深く理解していくことができます。それと、大学で読んだ印象的な一冊として、ルソーの「Social Contract」もお薦めの本です。少し読みづらい点もありますが、「社会に対する責任」や「自由の限界」と「社会貢献に対する意識的な働きかけ」などについて学べます。都市の発展は市民の力で成り立つことを教えてくれます。

## 未来の研究者へ一言

“Minds are like parachutes, they only function when open.”

## 最近の主な論文・評釈

- “Human Security, Social Competence and Natural Disasters in Japan and New Zealand: A Case study of Filipino migrants.”  
(with Arlene Gares Ozanne) *Japan Social Innovation Journal*, 6(1) 42-60, 2016.
- “Bridging the Gaps: The Atikha Experience in Migration and Development in the Philippines.”  
In: Kent, Pauline et al (eds.) *International Migration and (Re)Integration Issues in the Philippines: Research Series Studies on Multicultural Societies* (3) 67-74, 2013.
- “Leadership and Social Innovation initiatives at the Grassroots during Crises.”  
(with Miharū Matsumaru). *Japan Social Innovation Journal*, 2(1) 77-81, 2012.

## 研究紹介

最近の研究テーマは、母国のフィリピンと日本の共通点である「自然災害の多さ」とそれらが地域経済と社会に与える影響についてです。自然災害は、家屋の倒壊から住んでいる人々の失業問題まで、多くの問題を引き起こします。災害地のこれらの課題や復興問題については、限られた地域資源の適切な再配分・活用を図るためにも、「住民・行政・民間組織」が連携しながら解決していく必要があります。このことを研究するには、フィールドワーク調査を行うことが大事な研究要素の一つとなります。例えば、東日本震災の後に東北地域でフィールドワークをさせて

頂きました。その目的は、この被災地域の持続的な復興に貢献するために必要とされる雇用対策、地域産業復興支援、今後の減災活動等の取組を明らかにするためでした。この時の調査を活かして、以下の2つの論文をまとめました。「地域におけるリーダー育成と社会イノベーションの取組事例の紹介」と「被災地における多様な市民が自発的に行う復興活動の一考察」というものです。これらの論文では、被災地におけるフィールドワーク調査や国勢調査等の統計データを用いて、地域における持続的な復興と災害リスク管理及び適応能力に関わる要因分析を行っています。



## BEST SHOT

亡くなった母の写真は私の宝物です。実家から離れていても、母の写真が私自身の過去のこと全てを思い出させてくれますし、そして何があっても、私のことを見守ってくれていると感じております。

## My Hobby

読書、映画(特にミュージカルとミステリー)、旅行を計画すること等が大好きです。